

青梅市の公の施設指定管理者評価シート

令和元 年度実施分

施設名	青梅市民斎場		
指定管理者名	富士建物管理・富士建設工業共同体 (代表者)富士建物管理株式会社		
指定管理期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日	担当課	市民課
設置目的	青梅市において、住民基本台帳に記録されている者または青梅市墓地公園の使用許可を受けた者が死亡した場合(市民等の配偶者が死胎を分べんした場合を含む。)において、当該死亡した者の葬儀を行うため。		

評価ランク	評価内容
S	協定等を遵守し、仕様よりも優れた管理であった。
A	協定等を遵守し、仕様に沿った管理であった。
B	協定等を遵守し、おおむね仕様に沿った管理であったが、一部に課題があった。
C	協定等を遵守できず、仕様に沿った管理ができなかった。

評価項目	評価内容	評価方法	指定管理者評価	評価理由	市評価	評価理由	
管理状況	適性な管理の履行	協定や事業計画に沿った管理が適切に履行されているか。 ・業務の履行(清掃・巡回の回数など)は適切か ・人員配置は適切か。 ・協定や事業計画どりの管理となっているか など	事業報告書 月報 マニュアル	A	業務の履行、人員配置については適切に行いました。また協定や事業計画に沿った管理を行いました。	S	適正な人員配置や、定期的かつ十分な清掃など、適正な管理が行われていた。 新型コロナウイルス感染症対策のために、通常想定される以上の業務を行い、感染防止対策についても積極的な提案、実施があった。
	事業報告	定められた期間での報告および連絡が指定管理者からされているか。	事業報告書 月報	A	報告や連絡は遅滞なく行いました。	A	日報、月報等の定期的な報告や、大雨時などの被害状況の報告は迅速に行われていた。
	安全性の確保	管理区域内の安全性については十分に確保されているか。 ・施設の安全性は確保されているか ・協定や事業計画どりの管理となっているか など	月報 現地調査 ヒアリング	A	業務員全員で安全性の向上に取り組みました。 また新型コロナウイルス感染症対策として令和2年2月中旬から積極的な換気と、いす、テーブル、その他の次亜塩素酸ナトリウムでの消毒を実施しています。	S	危機管理マニュアルの整備や訓練などを行い、巡回や機械警備による安全性の確保を行っていた。 年度末からは新型コロナウイルス感染症対策のため、仕様以上の安全性確保の取り組みを行った。
	法令等の遵守	個人情報保護のための体制、書類および情報の整理および保管等は適正であるか。 ・市への報告は適時、適切にされているか など	事業報告書 月報 マニュアル	A	個人情報を含む文書は鍵のついた場所に保管、またはシュレッダーにかけするなど適切に処理しています。	A	個人情報保護は適正に行われ、強引な問合せ等に対しても、個人情報の漏洩のないよう対応していた。 書類等の管理にも問題は見られず、市への報告は必要または定期的に行われていた。
	業務記録	業務等の記録は、適正に作成、整理および保管がされているか。	月報 現地調査	A	業務記録、日誌、月報などは適切に保管、提出しています。	A	月報、日報、または緊急案件の記録を行い、報告された内容に過不足等は見当たらなかった。
	緊急時対応	災害時等の緊急時の体制は整っているか。	月報 マニュアル	A	緊急時における役割分担を徹底し、非常食や防寒シート、懐中電灯などの非常用備品を常に整えています。	A	緊急時のマニュアルの整備、連絡体制、急病や新型コロナウイルス感染、退職などの際の従事者の補充などの体制を整えていた。
		災害時等の緊急時の対応研修、訓練等を行っているか。	事業報告書 月報 現地調査	A	年2回防災訓練を行っています。	S	消防訓練や災害時の対応の研修、シミュレーションなどを行っていた。 年度末からは新型コロナウイルス感染症対策のために積極的な検討を行っていた。
適切な財務・財産管理	適切な財務運営・財産管理が行われているか ・建物や器具の破損、物品の紛失等はあるか など	事業報告書 月報 現地調査 ヒアリング	A	定期的に保守点検を行い施設の管理に努めています。経年劣化による建物の破損や設備の故障などは市民課と相談のうえ、適切に修繕を行っています。	A	保守点検の実施など、備品等の財産管理は適切に行われ、予期せぬ故障や破損については、即時報告、修繕を行っていた。	

事業効果等	事業の取組	事業計画どおりのサービスが提供されているか ・事業の計画、実施、成果は計画どおりか など	事業報告書 月報 現地調査 ヒアリング	A	透明性と公平性を重視する。個人情報保護を徹底する。安心、安全に対する意識の向上。施設の適切な維持管理など、事業計画に沿ったサービスを行いました。	A	事業計画どおりのサービスを提供し、年度末からの新型コロナウイルス感染症による混乱下でも支障なく業務を遂行できていた。
	利用の状況	事業計画どおりの利用状況となっているか ・利用者は事業計画どおりか(環境の変化など外部要因を考慮)	事業計画書 事業報告書 月報 現地調査 ヒアリング	A	平成30年度は通夜450件、告別式511件、合計961件。平成31年度は通夜419件、告別式496件、合計915件で約5%のマイナスとなりました。特に3月は新型コロナウイルス感染拡大の影響から、通夜34件、告別式38件、合計72件と前年比で約マイナス17%となりました。	A	民間斎場の増加や葬儀の小規模化により斎場利用は減少傾向にあった上、年度末からの新型コロナウイルス感染症による大規模葬儀の自粛により利用者数は減少した。外部要因を考慮すれば、指定管理者の責によらないと考えられ、仕様に沿っていた。
	利用者意見の収集	利用者アンケート等を年1回以上実施し、利用者意見の収集をおこなっているか	月報 アンケート	A	アンケートBOXを設置するだけでなく、葬儀業者を対象としたアンケートを実施しました。	A	利用者からのアンケートを募ることに加え、葬儀業者へのアンケートやヒアリングにより意見集約を行っていた。
		利用者の満足度を得られているか ・職員の接客対応、利用条件等は適切か	現地調査 ヒアリング アンケート マニュアル	A	円滑な搬入のため、式場の受入れ準備が整っている場合に限り14:30(以降)に通夜の準備開始を許可することとし、大変喜ばれています。接客に関しては接遇研修を年2回実施し、従事者全員の意識の向上に努めています。また利用条件については条例を遵守するとともに、常に公平を心がけています。	A	利用者満足度向上のための自主事業を積極的に行っており、苦情等にも迅速に対応していた。
	利用者意見に対する対応	利用者アンケート等による意見に対し、適切に改善策が講じられているか	月報 現地調査 ヒアリング	A	マイクのコードが短い→長いコードと交換 棺台車の動きが悪い→キャスターを交換 マイクの感度が悪い→新品と交換 祭壇リモコンの感度が悪い→受光機変更などの改善を行いました。	S	例年アンケートの提出数が少なく利用者からの直接の意見集約は難しいが、利用者ニーズを考慮し、改善策を検討・実施していた。
	行政目的の達成	行政と連携を図り施設の目的を達成しているか ・施設の設置目的を達成しているか ・市および関係機関との連携が適切に行われているか など	事業報告書 月報 現地調査 ヒアリング	A	施設を有効的に活用していただくため、斎場・火葬場の見学説明会を開催し、市民の方に施設を見ていただきながら葬儀について説明させていただきました。また、葬儀社(78社)に「青梅市民斎場、青梅市火葬場のご利用について」を配布し、変更点を含め改めて斎場、火葬場の利用方法などを周知しました。市民課には報告を怠らず、指示に従い業務にあたりました。	A	自主事業により、火葬場とともに斎場の設置目的を達成するための市民を対象とした見学会を行い、市とも意見交換を行っていた。また、他斎場とも意見交換を行っていた。
	その他提案内容等	指定管理者選定時に提案のあった事項等について、提案とおりに実施できたか	指定管理申請書 事業報告書 現地調査 ヒアリング	A	透明性と公平性を重視する。個人情報保護を徹底する。安心、安全に対する意識の向上。施設の適切な維持管理など、指定管理申請書で提案した事項を実施しました。	A	施設の維持、地域貢献、公平なサービスの提供など、提案された内容の実施に努め、一定の達成が見られた。
会計	処理	管理業務の会計に関する帳簿、書類の整備および保存は適正にされているか。	事業報告書 現地調査 帳簿類	A	斎場の使用申請書等は担当者と責任者が2重でチェックしたのち適切に保管しています。領収書は入金の際に市民課にコピーを提出し、透明性を維持しています。	A	会計に関する帳簿、書類の整備および保存は適正にされていた。
	管理	現金等の管理は適正であるか。また、金庫等の鍵の管理は適正であるか。	事業報告書 現地調査	A	現金は金庫に保管し常に鍵をかけています。夜間は金庫を入れているロッカーの鍵は1階の管理室で保管しています。また現金は週に2度ほど市役所内の金融機関に入金しています。	A	現金等の管理は適正にされていた。
収支状況	施設の収支決算状況	赤字決算に陥っていないか。 予算と決算に大きな相違があった場合はその相違の理由が的確である。	事業報告書 帳簿類	A	電気代の予算が11,307,660、決算が10,381,378。燃料費(灯油)の予算が6,937,245、決算が5,322,007と大きな開きが出ました。電気については30年度に比べて使用量が約2.5%削減できたことに加えて、電力会社を変更(F-Powerから青梅ガス)したことで単価が下げられたことが理由として挙げられます。灯油については30年度に比べて使用量が約11%削減できました。これは火葬件数の減少(前年比マイナス約3%)に加えて、低燃費な火葬方法の実践によるものだと考えられます。	A	施設使用料は市の歳入となる。指定管理委託料と比較して、赤字決算には陥っていませんでした。
	指定管理者の収支決算状況	経常利益率(経常利益÷売上高×100(当期経常増益額÷経常利益×100))がプラスになっており、赤字決算に陥っていない。	決算報告書	A	経常利益率4.02%増、経常利益増加率25.54%増と、いずれもプラスであるため。	A	経常利益率がプラスになっており、赤字決算に陥っていませんでした。
		借入金に依存した資本構造ではなく、自己資本比率(自己資本(または正味財産)÷総資本×100)が30%以上となっている。	決算報告書	B	自己資本比率が24.02%と30%を下回っているため。	B	自己資本比が30%以下であった。
流動比率(流動資産÷流動負債×100)が100%以上となっている、事業継続の安全性に不安がない。		決算報告書	A	流動比率が333.95%と100%以上となっているため。	A	流動比率が100%以上となっていた。	

1 指定管理者自己評価における評価理由、意見等

評点	数	記入欄 *上記のほか以下のような取り組みを行いました。 ・階段のワックス剥離やカーペットのシャンプークリーニングなどを行い、場内全体の美化に努めました。 ・第2式場の仏具の煤等による汚れを研磨剥離しました。 ・すべての案内看板の押さえを透明アクリル板に変更し、看板(紙)のゆがみを解消しました。 ・地下道側溝が石灰等の塊で汚れが目立っていたので、園芸用の砂利を敷き詰めました。
S	0	
A	20	
B	1	
C	0	

2 市の評価、意見等

評点	数	記入欄 協定や事業計画の仕様は遵守されていた。さらに、利用者満足度向上のために、自前で施設補修や工夫を凝らした運営に努めていた。近年の葬儀形態の変化(小規模化)や民間斎場の増加によると思われる利用の減少についても、積極的に対策を検討し、市への提案を行った。 年度末からは新型コロナウイルス感染症対策のため、仕様以上の取り組みを積極的に行っており、安全性の確保、利用者の立場を考えた管理を続けていた。 斎場と火葬場は、富士建物管理・富士建設工業共同体として平成26年度から平成30年度までの前指定管理期間から引き続き、平成31年度から新たな指定管理期間として更新した。前指定管理期間以上に共同体として斎場と火葬場の連携をとって業務を行う姿勢が見られ、今後さらなる連携が期待される。
S	4	
A	16	
B	1	
C	0	